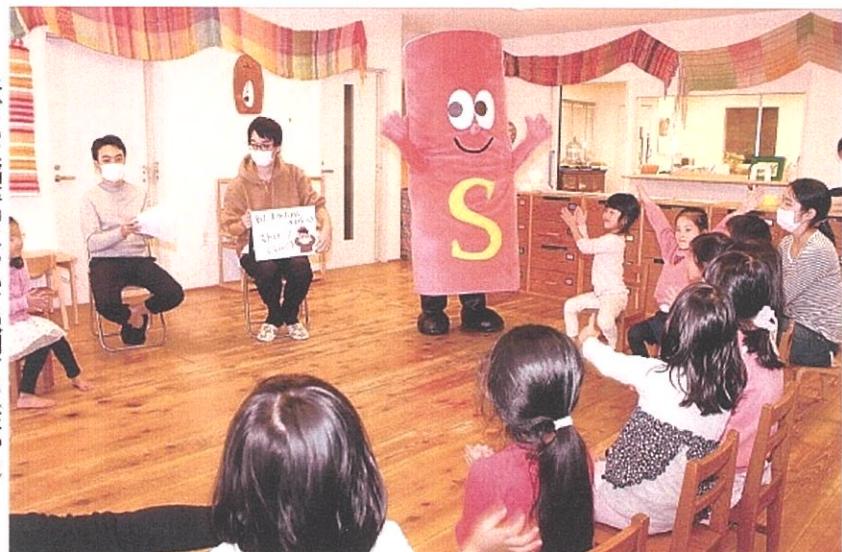


## 異変あれば大人に伝え、救急車呼んで



子どもに脳卒中にについて説明する(左から)  
尾原信行医師、藤原悟医師、ストローくん  
神戸市中央区港島南町2、杉の子保育園

# 園児から始める脳卒中講座

「急に顔がゆがんだり、しゃべれなくなったりした大人がいたらすぐ救急車を呼んでね」。神戸市立医療センター中央市民病院（同市中央区）脳神経内科の医師が、保育園で出前講座を

続いている。難しい話にも親しみやすさを感じてもらおうと、血管がモデルのゆるキャラ「ストローくん」を考案し、同行。画用紙に手描きしたイラストなどを使いながら、大切な行動について分かりやすく発信する。（小尾絵生）

## ゆるキャラ「ストローくん」活用 予防教育、家族への浸透期待

**ストローくん** 神戸市立医療センター中央市民病院公認の脳卒中啓発キャラクター。幅広い世代に脳卒中にについて知つてもらうため、2017年に誕生した。脳卒

中を英語でストロークと呼ぶことや、血管の形状がストローに似ていることが名前の由来。20年のゆるキャラグランプリでは全国53位。県内1位。身長185cm。

る院内の杉の子保育園でのみ続けてきた。就学前の子どもを対象にする理由を、尾原医師は「幼いうちから予防教育ができる」と説明。さらに「子どもどうんきりの時に、親が発症することもある。119番通報につながる行動をとれるようになつてほしい」と意義を強調する。

□ 昨秋行われた出前講座には5、6歳児が参加した。医師2人とともにストローくんが登場すると、子どもたちの歓声が響いた。「血管って知つてる?」と藤原医師。「大人の血管は全部つながると、地球2周分ぐらいの長さになるんだよ」と興味をひくように切り出した。

その後、血管の病気についての話に移つた。藤原医師は「急に倒れる、しゃべれなくなる、片方の手

脳卒中は、脳出血や脳梗塞、くも膜下出血といった急性脳血管障害の総称。発症から治療までにかかる時間の長短がその後の回復を大きく左右するため、素早く医療につなごことが重要だ」とされている。出前講座に取り組んでいるのは、いずれも脳神経内科の尾原信行医師(46)と藤原悟医師(37)。2020年に2人で始め、新型コロナウイルス禍と重なったことから、病院職員の子を預か

る院内の杉の子保育園でのみ続けてきた。

就学前の子どもを対象

にする理由を、尾原医師は

「幼いうちから予防教育

ができる」と説明。さらに「子どもどうんきりの時に、親が発症することもある。119番通報につながる行動をとれるようになつてほしい」と意義を強調する。

□ 昨秋行われた出前講座には5、6歳児が参加した。医師2人とともにストローくんが登場すると、子どもたちの歓声が響いた。

藤原医師は「脳卒中は日常生活の心がけで予防効果が大きい。講座に参加した子どもたちが家庭で健常維持のポイントを伝えたい」。

藤原医師は「脳卒中は日常生活の心がけで予防効

果が大きい。講座に参加し

た子どもたちが家庭で話す

ことで、親や祖父母の世

代の意識も高めるきっかけになれば」と期待を込めた。

□ 今後、状況が整えば、市

内のほかの保育園や小学校

など院外での講座も検討す

中央市民病院  
保育園で医師